

シンポジウム

附属小学校教育実践研究の「新しい役割」について

－教師教育という視点と、学校教育実践の開拓という視点から－

横浜市立西寺尾第二小学校校長
南 雲 成 二

1 はじめに

附属横浜小教諭(昭和57年4月～平成6年3月まで12年間)であったこと、大学同窓会「友松会」横浜市神奈川支部長であること、公立小学校長であることから、パネラーとして考察する機会を得た。

私の役目は、横浜国立大学教育人間科学部附属小学校が、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市の教育実践と教育研究・教員の専門職育成に“これまで以上になくなくてはならない存在となっていく、神奈川県下に深く根ざしながら、日本の学校教育をリードしていく役割を今まで以上に積極的に担っていく”ことを願い、「附属小の新しい役割」について課題点を少しでも明確にすることにある。

2 主な報告内容

[A] 公立小3年→附属小12年→公立小18年という個体史的な視点から捉えられる「教師教育における附属小の役割、職能成長支援力」についての考察。

※基本観点は、2010年3月刊『教育デザイン研究創刊号』p39～p47「教育デザイン研究会第1回大会に参加して～課題の明確化～」(拙稿)に詳しい。

[B] 平成22年度版「横浜市立小学校長会提言書」「神奈川県小学校長会提言書」並びに小学校長会悉皆調査等の主な内容から重点化される学校教育実践の開拓課題、検証課題からの考察。

資料1: 横浜市立小学校長会「平成22年度『未来輝く教育のまち・横浜』の実現に向けて」から重要関連項目抜粋(345校 H22.8)

〔1〕横浜市教育委員会運営方針の実現に向けて

1. 子どもの力を高めます について

重点3 読解力の向上 **重点4** 小中一貫教育の推進 **重点5** 新たな情報教育の推進 **重点6** 子どもの実態把握と確固たるデータに基づく教育の推進 **重点7** 豊かな心を育む指導の推進 **重点8** 横浜から創る新

たな特別支援教育の推進

2. 学校・教職員の力を高めます について

重点10 教師力の向上

重点11 学校マネジメント力の強化

重点12 経営方針と学校評価・情報発信の推進

4. 家庭・そして地域の教育力を高めます について

重点14 教育の原点としての家庭教育環境づくり

〔2〕継続的提言から、必要度大の再提言内容

- ① 教職員や非常勤講師の採用等
- ② 理不尽な要求をする保護者への対応
- ③ 職務内容の明確化による副校長業務の円滑化
- ④ 旅費制度の抜本的な改正

〔3〕今日的な課題に向けての改善案

- ① 理科教育の充実に向けた横浜市独自の予算措置
- ② 免許更新対象者への適切な支援
- ③ 外国籍や外国につながる児童生徒の増加に伴う支援の充実について
- ④ 国際平和プログラム

資料2: 神奈川県公立小学校長会「平成22年度公立小学校教育の充実と進展に関する提言」から重要関連項目抜粋(H22.5)

1. 学ぶ力を着実に身に付ける教育の充実

- (1) 外国語活動の指導体制づくり: ALT等の配置
- (2) 個に応じたきめ細かな指導の充実
- (3) 発達障害等配慮を要する児童への講師の配置

2. 人間性と社会性を育む、ふれあい教育の推進

- (1) 児童指導専任教諭の配置
 - (2) 食育・健康教育の推進と栄養教諭の配置
- #### 3. 一人ひとりを大切にしながら育ち合う教育の推進
- (1) 支援教育を更に推進するための教員の配置
 - (2) 特別支援学級の充実を図るための教員の配置
 - (3) 相談&心のケア、スクールカウンセラーの配置

4. 協働と信頼に根ざした学校づくりの推進

- (1) 活力ある学校づくり推進のための諸条件の整備

(2) 現職教育の充実を図る研修体制の確立 & 条件整備

5. 学びを支え、快適で安心な教育環境の整備

(1) 安全・安心な施設環境の整備

(2) ICT 教育の充実を図る研修体制等の整備

(3) 学校図書館の充実を図る、司書教諭の専任化

6. 今日的な課題についての改善策

(1) 臨時的任用職員及び非常勤講師の充実と確保

(2) 家庭教育充実に向けての啓発

(3) 児童指導における関係機関との連携の充実

(4) 旅費確保による研修の充実

資料3：H22.10 実施 神奈川県小学校校長会悉皆調査研究より、重要関連項目抜粋

<調査の主旨>「夢と希望」「自立と共生」「学校づくりへの挑戦」を理念に据え、新しい教育の方向を見定めながら、学校経営や組織の充実を図ること。地域に一層開かれた特色ある学校づくりや教育改革の着実な推進を図ること。活力ある学校経営を進める際に活用できる資料化を目指すこと。

1. 「教育課程編成・実施上の課題」に関する調査

① 「確かな学力」の育成について

② 「豊かな心」「健やかな体」の育成について

③ 外国語活動（英語活動）の推進について

2. 「教育活動を支える教育環境課題」に関する調査

① 教師の指導力の向上について

② 学校・家庭・地域の連携について

③ 幼・保・小・中の連携について

④ 隠れたカリキュラムについて

具体内容：1. ① 「確かな学力」の育成に関して

設問 1 習得や活用を図る授業改善観点。3点以内。

(1) 研究授業の回数増など校内重点研究の内容充実

(2) 子どもの主体的な学びを促す教育課程の工夫

(3) 学校OJTの充実 (4) 教材の工夫、ICTの導入活用

(5) 学習の習得・活用を図る特別な時間等の設定

(6) 問題解決(的)学習の充実 (7) 学習評価の充実

設問 2 思考力・判断力・表現力の育成課題 3点以内。

(1) 言語活動の充実 (2) コミュニケーション能力の育成

(3) 基礎的・基本的知識技能を活用する力の育成

(4) 学習評価の充実 (5) 問題解決(的)学習の推進

(6) 体験的活動の重視

(7) 基礎的・基本的知識技能の指導徹底

設問 3 確かな学力を身につける学校課題、3点以内。

(1) 教師の指導力低下 (2) 学習内容の増加

(3) 学校の組織的な取組体制が確立していないこと

(4) 学級のあれ (5) 問題解決的な学習の未定着

(6) 1学級の児童数が多く、個に応じた指導が困難

(7) 担任がほぼ全教科を指導するシステムの改善

具体内容：1. ② 「豊かな心・健やかな体」の育成

設問 4 豊かな心を育てる重点課題、3点以内。

(1) 道徳教育の充実 (2) 体験的な学習の充実

(3) 人権教育の充実 (4) 情操教育の推進

(5) 地域の人たちや大人との積極的なかかわり

(6) 異年齢集団での子ども同士の間関係づくり

(7) 福祉活動やボランティア活動の推進

(8) 基盤となる家庭（保護者）との連携や啓発活動

設問 5 「健やかな体づくり」重点課題を3点以内。

(1) 楽しく学べる体育の時間

(2) 学校独自に設定した運動タイムなどの推進

(3) 体力テストの分析による体力向上プラン

(4) 健康について考える学校保健委員会の充実

(5) 歯磨き手洗い、薬物・飲酒等の保健指導の徹底

(6) 「食・食育」に関する意識を高める指導

(7) 悩みや不安等に適切に対応できる体制づくり

(8) 「早寝・早起き・朝ごはん」等、家庭（保護者）

と連携した規則正しい生活の指導

具体内容例：2. ③ 幼・保・小・中の連携

設問 26 小・中連携に向けての課題（複数回答可）

(1) 小中連携（一貫）カリキュラムの編成が困難

(2) 学校間の日程調整の難しさ

(3) 連携に向けたカリ作成の時間確保（保障）

(4) 児童・生徒の交流時間の確保と安全確保

(5) 連携に向けての教師の交流

(6) 小学校と中学校の指導観の共通理解

(7) 担当者の異動と継続

具体内容例：2. ④ 隠れたカリキュラム

設問 27 全職員が同じ方針で取り組めるための重点。

(1) 学校のきまりの充実 (2) 学年研の充実

(3) 児童指導・児童理解の充実

(4) 特別支援教育の充実 (5) 生活指導の充実

設問 28 教職員に求められる力。（複数回答可）

(1) 学校の組織をチームとして捉え、学校全体の課題を

把握する (2) 学級を常にオープンにする雰囲気

(3) リーガルトレーニング・エンカウンター等の研修

(4) 学級経営力向上のための研修

(5) 療育センター、児童相談所との積極的なかかわり

(6) 学級集団の状況を知るためのアンケートや調査による児童理解

3 まとめにかえて

【A：教師教育という視点から】

附属横浜小で学び得た教師力の1番目は、学年・学級経営力・チーム力の形成である。学級・学年の学習文化の種のまき方・育て方・収穫のしかた、させ方。「偶然の出会いを必然に!」「どっこい生きてる立野の丘の仲間達!」をテーマに個と集団の《共育て力としての教育力》の育成とその具体的指導のあり方。教師間の話合いの仕方、記録の取り方・生かし方(学年会ノート・ファイルの蓄積・改善法)も大変役にたった。特に学年・教科担任全員で創出する「学年だよりと年度末製本化」本体と別冊シリーズ等、学習文化の紡ぎ方は大きな力となっている。ともすれば「閉じられた学級単位の経営」に陥りやすかったり、学級・学年間の学習文化の交流・教科指導や生活支援の協働化を妨げやすい状況があるが、その閉塞観を積極的に打ち破っていく教師力も形成することができた。今横浜市が積極的に進めている「メンターチームの活性化」の先駆けである。特に若い先生方の大量採用をおこなわざるをえない横浜市や川崎市にとって、先生方が一人孤独に、孤立的に学級経営や教科・領域経営に悩みを抱え、メンタル面で行き詰まっていくことの解決策としても有効である。学年・学級の協働経営力の形成、全員が「学校担任力を育て合う風土形成・教師力育成」は、“温故知新”両附属小学校が積み上げてきた財産であり、これからの附属小の新しい役割にも直結している。鎌田提案にも赤坂提案にもその意志と、新しい時代に即応したデザインやスタイルの具体を見て取ることができる。心強いことである。

教師教育力の2番目は、「教科学習指導力、道徳・特活・総合的な学習・国際理解教育等の支援力・デザイン力」の形成である。私の場合、言語教育を核として《教え手も学び手も共に納得のいく(わかる・できる・使える・もっとやりたくなる「る」の学力形成と、調べ方・発表の仕方・書き方・読み方・話し方・聞き方等の「方」の学力形成)学習単元の構成原理・実践方法と評価改善研究》を中心に歩んできた。研究発表会も校外の研修も、教育実践力・教師力形成の基礎・基本の一部として体験的に習得することができた。横浜市立東小における平成8/9/10年度、横浜市・神奈川県・文部科学省の三指定

を受けた教育課程「音楽」の実践研究でこの力を検証することができた。「音楽教育という窓」から学校創造とカリキュラムマネジメントの推進を担った。この研究実践が平成10年の新学習指導要領「音楽」の基礎となって今日の改訂へと受け継がれている。先駆的な実践研究と提言ができたのも、附属小研究同人や大学研究室との深い繋がりという恵まれた職能成長環境で教師力を鍛えていただいたからである。

3番目は、「食教育・食育教育」を中心とした子どもたちの「心とからだ育て」の実践である。毎日の学校給食が、1年生から6年生までの縦割り班で構成されていて、2ヶ月に一回ずつメンバー交代が行われ上級生が下級生の面倒を丁寧にみながら「食」の交流を深め、併せて人間的交流も深め合っていく。担当の教師も学級・学年関係なくその時その時シャッフルし、子どもたちとの出会いとふれあいを深めたり広めたりしていく。ランチルームやプレールームがなくても、交流給食会を工夫することで日常的な学年交流や異学年交流・縦割り班の交流も可能であり、大きな実践力・可逆性豊かな交流学习と食育の可能生を学ぶことができた。このことはその後の様々な教育活動デザインに大いに役立っている。

以上、「古くて新しい附属小教育実践の役割」の一つに教師教育・教師の職能成長支援がある。

【B：学校教育実践の開拓という視点から】

資料1・2・3は「横浜市立小学校長会」「神奈川県小学校長会」の核となる提言内容と、県小学校長会悉皆調査研究の主な内容である。ここに協働開拓課題と共有実践課題が細やかに示されている。

附属小と公立小では、その役割・使命において確かに違いはある。しかし、「思考力・判断力・表現力の育成を基盤とする生きる力の育成」等、実践課題の多くは共通するし、明確に共有すべきである。

「附属小の新しい役割」を考える時、今まで以上に「提言内容」を重視しあい、「教育実践開拓」に取り組み、その内容と方法・成果と評価・検証改善を具体的に発信し、連携していくことが必要である。観点は3点。①児童一人ひとりの学力向上・能力育成②教師力・学校力の育成や啓発、評価・改善③家庭・地域・関連機関との協働参画・学習文化開拓。

「フットワーク軽く、まず実践から!」が肝心である。